

大会テクニカルレポート

大会名 ハトマークフェアプレーカップ 第37回 東京都4年生サッカー大会

日時 6月23日(日)6月24日(土) 会場 府中市少年サッカー場

東京都少年サッカー連盟 委員長 吉實 雄二
技術指導部長 井上 雅志
文責 技術指導部 飯塚 泰之

結果概要

フェアプレー賞 Aグループ FC.VIGORE東大和Jr Bグループ FC.GLAUNA Cグループ シルクロードサッカークラブ Dグループ PELADA FC

グットマナー賞 Aグループ SSSウイングス・ガールズ Bグループ 瑞穂三小サッカークラブ Cグループ 小平FCイレブンガールズ Dグループ トヨニューไนเต็ดサッカークラブアリエッタ

優勝 Aグループ FC TRIANELLO Machida Bグループ 西原少年サッカークラブ Cグループ FC多摩川ジュニア Dグループ 鎌水サッカークラブ

	試合数	得点数	1試合当たり得点数
今大会	96	514	5.4

講評 東京都少年サッカー連盟技術指導部が目指す理想の選手育成のために

①観て判断する

観て判断することに関しては、相手プレーヤーのプレッシャーが弱い時には顔を上げてまわりの状況を確認しようとする意識はあるが、プレッシャーが強い相手に対しては、慌ててしまい良い判断ができない場面が見られました。その中でも、味方選手からボールを受ける前から相手の位置やスペースのあるなしなど周りの状況を見ている選手がより多くのチャンスを作り出せていました。この年代から周りをよく見てよい判断ができるように、ボールを受ける前や保持しているときも的確な判断ができるようプレーの質と良い選択肢を持てる必要があると感じました。

②判断を伴ったテクニックの発揮をする(ファーストタッチの質・プレーの選択)

ファーストタッチの質やプレーの選択に関しては、スペースがあるときのボールの止める位置や攻撃方向がよく観られるようなアングルを作り出せる選手がいる一方で、パスを出す選手に身体を向けたままの選手やスペースがあるにもかかわらず足元にボールを止めてしまう選手もいました。普段の練習からより試合の状況を意識付けをするためにも、攻撃の方向性などが持てるようなトレーニングが必要であると感じました。

③攻守に関わり続ける

積極的にボールに関わろうとする選手は多くみられるのだが、ゲームの展開を予測して守から攻に切り替わるときにスペースへの走り込む動きや、攻から守への切り替わるときに相手選手へのマークへ着いたりスペースを埋める動きは少なかった。試合の状況に合わせてアクションを起こせるかが今後の課題でもあり、攻守に関わり続けられるように、選手への良い声掛けが重要であると感じました。

④積極的にコミュニケーションできる

試合に入る前の掛け声的なチームとしての決まりごとのような声掛けはよく出来ているチームが見られましたが、ゲーム中でのマークの指示やキーパーからのコーチングなど試合の状況に応じた声については参加チームの中でも出来ているチームが少なかったと思うので、今後の課題であると感じました。

⑤リスペクトの心をもてる

フェアプレーカップと大会名についての通り、随所にチームメイトや対戦相手レフェリーに対しても、リスペクトされている試合が多かったのですが、1試合だけ退場者が出てしまったことはとても残念なことでした。

総評

大会初日の午後から強めの雨が降った中、また、翌日のぬかるんだピッチコンディションでも、2018年ロシアWorld Cupの開催期間中の大会とあって1戦1戦白熱した戦いが行われていました。「Tokyo U-12's way」をベースとして、東京都技術指導部のスタッフを中心に視察を行いました。各グループの1位のチームは、個々の能力が高い選手が多く広い視野を持ち、相手の強いプレッシャーがあっても冷静に良い判断が来ていました。特に、前線の選手はボールを受ける前から目指すべきゴールの状況を確認をしていて、ゴールキーパーのポジショニングによっては積極的にシュートチャレンジをして得点を得る機会を増やしていました。ディフェンスに関しても、ボールを失った瞬間から積極的にボールを奪い返しに行ったり、相手選手のマークやスペースを埋めるためにプレスバックがよく出来ていました。今後の課題としては、各ブロック共に個々の選手が、より強いプレッシャーを受けていもその試合状況にあった良い判断が出来るように「止める・蹴る・運ぶ」と言った基本的な技術の習得とよりよい判断が出来トレーニングを積み重ねて、レベルアップが出来ように個人技の習得を目指して欲しいです。最後に、悪天候の中で行われた大会において、大会準備等にご尽力していただきました大会関係者すべての皆様に感謝いたします。